

GEBUN GALLERY

地域連携プロジェクト 芸文ギャラリー

富山大学芸術文化学部 コーディネーター 羽田 純



2012年中のピックアップ企画

芸文ギャラリーは、芸文学生の①授業成果・制作活動の発表、②地場産業活性・まちづくりと地域発信を軸に、③その他アートやクラフトという要素を補いながら、ここ高岡市に存在するあらゆる文化資源を有効に発信・編集する、ことを目的としている。ものづくりを柱に生成されるコミュニティは地域にとってかけがえのない有機的な出会いを産む『場』であるのと同時に、学生にとっても学校だけでは経験することのない刺激や発見、出会いの『場』にもなりうる。これらの活動を通じ、情報や文化の発信により街のにぎわい創出にも結び付くよう、企画・運営を目指す。

開設5年目となる2012年は、御旅屋通りへの新規移設だけでなく、東京でのキャラバンや、高岡クラフト市場街の実施など、全国一地元と様々な場所で、更に充実した運営になった。

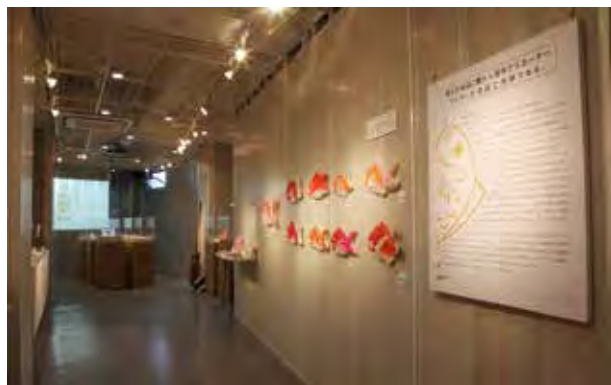
■ かまぼこ大学

「かまぼこ大学」は、富山県における地域の食文化「細工かまぼこ」の衰退を危惧し、現代のライフスタイルにあった在り方を考察したプロジェクトである。県内のかまぼこメーカーに従事する45歳未満の会員で構成される「^{ほうゆうかい}蒲友会」会員と県内で活躍する若いクリエイター、学生をコラボレーションさせた。

まず実際の提案に入る前に、かまぼこメーカーの工場の調査を行った。原材料、製法、製造工程などの案内を現場で受けた後、細工体験も実施した。後日、かまぼこの歴史に詳しい本学准教授・大熊敏之による講義を開催し、約3ヶ月の時間をかけて基本的な知識から学んでいった。

今回のプロジェクトでは、5名のクリエイターを招聘したが、内2名は学内公募から集まった学生である。原型師、プロダクトデザイナー、イラストレーター、グラフィックデザイン専攻（学生）、プロダクトデザイン専攻（学生）が、それぞれの領域を活かした提案を目指した。

新提案にあたり、クリエイターには2つの課題を出した。一つは、いわゆる従来の細工技術を活かしたも



「かまぼこ大学」展



あらたに企画・開発したかまぼこの試作品



の。もう一つは、現在の食文化に合う、「食材」として機能するものである。また、より実用性の高い提案を目指す為に、外部からのアドバイザーとして「富山県総合デザインセンター」職員をはじめ、市内に店舗を構える料理人2名（和・洋1名ずつ）を迎え入れた。

約2ヶ月間のサンプル制作 ⇒ プレゼン ⇒ 修正を繰り返し、芸文ギャラリー駅地下店からの新規移設である3月、最初の企画展として「かまぼこ大学」がスタートした。会場では、①様々なメーカーの細工かまぼこの造形を一堂に集め鑑賞できる、②型や文献、製造方法などを学べる、③新しい「細工かまぼこ」、④新しい「食材としての提案」の、4つのセクションに分けて展示した。

会期が始まり、レセプションでは県内の食品店や土産屋など、実販売に関連する業者を中心に招待し、プレゼンテーションと試食会をおこなった。テレビ、新聞などのメディア効果も手伝って、来場者数は企画展としては過去最高値となった。

■ それゆけ、図工女子！

2010年より、芸文ギャラリー企画展として結成され

た女性クリエイターユニット「図工女子」。発足以来、常に高い人気を保持し、2012年は計3度の展覧会を開催した。本年は新たに1名の学生が作家として加わった上に、広報物や企画制作スタッフとして、学生ボランティアが数多く参加してくれた。何より、初の試みとなった、2度にわたる東京での開催は、多くの関係者の協力を得ることができた。

□ 渋谷パルコ展~ガーリークラフト展、キラキラおめめの宇宙人編~

芸文ギャラリーの活動としても、初の東京キャラバン展示。パルコ渋谷店地下一階「once a month」にて2週間の作品展示、ワークショップ等をおこなった。来場者は約2,500名で、作家の同級生や卒業生他、富山県からの来客も多く見られた。

□ 芸文ギャラリー展~空とべ、ツルツル脳みそちゃん！編~

「学べるズコジョ」をスローガンに、ワークショップや座談会、トークショーをメインとした展覧会を行った。



「図工女子」のメンバー



「図工女子」山田遊氏を迎えるトークショー



ワークショップでは主に、図工女子新メンバー募集の際に応募があった学生や、学生のグループ展「Tommy Dining」メンバーが参加し、プロの目線から、手作り雑貨についてのアドバイスを行った。座談会では、学生・県内作家・若手職人を交えて対談し、ウェブでの生放送にもチャレンジした。トークショーでは、パイヤーの山田遊を招いて、「現代クラフト」の新たな可能性を話し合い、会場の席数も定員越えとなった。

□ 中野ブロードウェイ展～トキメキ、シャンシャン☆シャングリラ！編～

流行の発信地であるパルコに続き、若手現代アート発表の場であるギャラリー「Hidari Zingaro」にて企画展を行った。アーティスト村上隆による、(有)カイカイキキが運営するこの施設では、本格志向の客層や、アートを志す高校生などが多数来場し、貴重な情報収集および大学活動の広報に繋がった。会期中は作家達が常に在廊したことで、「会える展覧会」として機能した。

■ 高岡クラフト市場街

本年度で26回目を迎える「工芸都市高岡クラフト展」を柱に、行政／大学／民間が協力し、様々なものづくりイベントを同時開催することで、「点」ではなく「面」としてのアプローチを試みた。このようにイベントをパッケージ化して開催するのは、初の試みであったが、大学教員や学生ボランティアの積極的な参加もあり、近年では最高の動員数を記録した。

□ 作家のひきだしと、クラフトの台所展

「工芸都市高岡クラフト展」出品作家が、会期中まちなかの様々な店やギャラリーなどで、本会場とは別の作品（つまり、ネタのひきだし）を発表する企画である。個々のアイデアや創作性の奥行きや広がりを楽しむことができるだけでなく、街に回遊性も生まれた。今年度からは、各会場にはそれぞれ担当の学生ボランティアを1名以上配置し、ショップ定員や取り扱う作家と個別に相談することによって、社会とのより密接な繋がりやマネジメントを実践的に学ぶ場となることを目指した。



「図工女子」中野ブロードウェイ展



「作家のひきだし」展



また、今年初開催である「クラフトの台所」では、商店街の飲食店協力のもと、購入前に実際の作家作品を使用してスイーツなどを食べることが出来る企画とした。会場は2箇所用意し、一方では、「富山ガラス工房」スタッフがビアグラスやワイングラスを提供した。

□ 和菓子のカタチ展

高岡で100年以上の歴史がある老舗の和菓子店「大野屋」協力のもと、明治33年以降制作された、オリジナルの木型をメインに展示した。高岡の商業と和菓子が文化としてどのように結びついてきたか、という解説や、当時の和菓子品評会における貴重な資料などを公開した。木型の展示は蔵から約600~700点をピックアップした中から、さらに約150点を選び出した。

さらに会期中、大野屋の新作ラムネ菓子を無料で試食できる券を会場で配布し、山町筋に立地する大野屋への回遊性を創出した。



「クラフトの台所」展

2012年 企画展示一覧

1/3-1/15	作家のひきだし展 2012
2/16-2/26	それゆけ、図工女子!~ガーリークラフト展キラキラおめめの宇宙人編~
3/10-3/11	雑貨屋 Tommy Dinin vol.7
3/19-3/25	かまぼこ大学
4/5-4/22	芸文プライズコレクション 2012
4/28-5/12	雑貨屋 Tommy Dining vol.8
6/7-6/11	千保川 さくらフォトコンテスト
6/14-6/24	JAGDA 富山 ポスターデザイン展 2012 グリーン vol.17
6/29-7/9	復興支援展
7/14-7/29	それゆけ、図工女子 真夏の番外編 図工女子概論~空とべ、ツルツル脳みそちゃん!!の巻~
8/2-8/8	Gift 13
8/2-8/7	ヤルキッズアート道場~空想ジオラマ、へんてこ村からこんにちほ!の巻~ヤルキッズアート道場
8/11-8/19	~夏休みだよ! こども展覧会『お盆のおでかけは、高岡新名所、ヤルキッズ村へ!』~
9/1-9/24	ハウモインサイド
9/6-9/18	それゆけ、図工女子!~トキメキ、シャンシャン☆シャングリラ!編~
10/4-10/8	和菓子のカタチ展 / 作家のひきだしと、クラフトの台所展
10/25-11/6	院生展~富山大学大学院芸術文化学 研究科修士課程 2年生作品展~
11/8-11/13	【第一期】全力!! 全開!! 工芸展 ~ゆとり学芸団セレクション~ 「箱の内と外」
11/22-11/27	【第二期】全力!! 全開!! 工芸展 ~ゆとり学芸団セレクション~ 「工芸の履歴書」